



京都駅周辺のアートライフ応援マガジン

5 TO 9

The Kyoto Station Area
CULTURE JOURNAL



優しいまち。
地域が若手アーティストに
絆と感性を育む、



京都駅周辺のアートライフ応援マガジン

5 TO 9

The Kyoto Station Area
CULTURE JOURNAL



優しいまち。
地域が若手アーティストに
絆と感性を育む、



京都市印刷物 第063136号(令和7年2月)
発行/京都市総合企画局プロジェクト推進室
*本誌記載内容の無断転載は御遠慮ください。



page **1-2**
京都駅周辺・東九条エリア：
若手アーティストたちを支える「大家さん」

page **3-4**
崇仁・梅小路エリア：
若手アーティストによる
アートプロジェクト「あつめやさん」

page **5-8**
地域×アーティスト|1||2|
あなたにエールを贈る、人と場所。

page **9**
アーティスト相談窓口情報

page **10**
5TO9 LIFEは、どんなメディアか？

若手アーティストたちを支える「大家さん」



「大家」として、

若手アーティスト たちの 未来を支える

京都駅東南部エリアの東九条で数人の若手アーティストが活動している。住まいとして、あるいはアトリエとして彼ら彼女らに家を貸し、若者たちの生活と制作を支える「大家」の岩田ヒロ子さんと東九条を活動拠点とする3人のアーティストに話を聞いた。

アーティストたちの「お母さん」

岩田さんがアーティストに家を貸し始めたのは10年ほど前のことで、そのきっかけは空き家対策だった。「義父が薬局を経営していた頃に購入した土地に長い間ほったらかしの家が幾つもあってね。それで京都市に相談したら若手アーティストの居住・制作支援を行う『HAPS』*さんをご紹介いただいたんです。ご自身も絵や音楽が好きだったこともあり、「HAPS」からの提案を快諾して以来、岩田さんは芸術に取り組む「借家人」たちと交流を続けている。「これまでに10人くらいの子が巣立っていったけどみんなええ子でね。テレビでよく見る映像を制作しているアーティストさんや今は芸大で絵の先生をしているアーティストさんうちの家に住んでたんですよ」と目を細める岩田さん。作品の感想を求められることもあり、「絵を見て『この部分はイマイチやな』といったら、次見たときに直してありました(笑)。「おなかを空かしてそうな子にはときどきご飯を食べさせてあげたんです。親心というのかな、そんな子を見たらほっとけんからね」。そう語る岩田さんを「お母さん」と呼ぶアーティストもいる。

*「一般社団法人HAPS(東山 アーティスト・プレズメント・サービス)」。若手アーティストが京都市内で活動できる環境を整えるために居住・制作・発表などのサポートを行い、岩田さんとアーティストとの間の物件マッチングを実現。(P7参照)

穴を開けても色を塗っても大丈夫

今、岩田さんの家に暮らすグラフィックデザイナーの有佐祐樹^{ありさゆうき}さんは東京から東九条に移住。京都に制作拠点を移した理由は、「いろんな方からお声がけをいただいたんです。京都には実験的なデザインを好む方が多いみたいです(笑)」。今の家には岩田さんの人柄や家賃などの条件はもとより、まちの雰囲気にも惹かれ入居を決めた。「京都駅に近くてすごく便利なのに静かで心地いい。制作に集中できます。鴨川に近いのもいいですね。よく川沿いの公園まで散歩しています」。向かいの家にはほかのアーティストがアトリエを構え、「ジャンルは違うけど感度の高い人たちと日常的に顔を合わせるのには刺激になりますね」と有佐さんの満足感が高い。

そのアトリエの主はインスタレーション作家の土屋咲瑛^{つちやさえ}さんと、京都市立芸大の大学院に在籍している安藤湖春^{あんどうこはる}さん。大学院の先輩後輩であるふたりが岩田さんの家を借りた決め手は、「好きにしている」ということ。「柱さえ壊さなければ、壁に穴を開けても色を塗ってもいいっていわれたんです。大きなモノを幾つも置いたり、その出来栄を確認したりするには広くて白い空間が必要なんです」と土屋さん。安藤さんは今の制作環境についてこう話す。「名古屋の実家を離れて一人で暮らしているので、お母さんに生活面を含め何かと気遣ってもらえるのは心強いです」。今後は地域とのつながりを強めていきたいというふたり。「制作の場を見学してもらおうオープンアトリエを企画しています。近所の方に『あの子ら何してるんやろう?』と思われるかもしれないので、地域に溶け込んでいきたい」と土屋さんが思いを語れば、安藤さんは「近所の方や子どもとの出会いが創作のヒントになるかもしれないし、それをきっかけに多くの人にアートに興味を持ってもらえたら、わたしたちにとってもいいこと」と期待を寄せる。

東九条を芸術家のタマゴのまちに

令和7年に複合文化施設「チームラボミュージアム京都(仮称)」の開業が予定されている東九条では、今後、アーティストとの接点がさらに増えることが予想される。「数十年前と比べると、まちの雰囲気がだいぶ変わってきたのを感じています。若くなったというのかな。これからも芸術家のタマゴみたいな人がいっぱい住んで、このまちの

よさを知ってもらえたらうれしいです」と目を輝かせる岩田さん。もちろん、今後も「大家」としてアーティストたちの未来を支えるつもりだ。「若くてユニークな考えを持つ人と付き合うと元気をもらえますからね。この喜びをほかの人にも味わってほしいし、みんなで若い子を支えたら東九条がもっと楽しいまちになるとちやうかな」。岩田さんの夢は大きく膨らむ。



インタビュー場所:HAPS HOUSE 撮影協力:一般社団法人HAPS



1:有佐祐樹(ありさゆうき)さん
石川県出身。成安造形大学デザイン科卒業。グラフィックデザイナーとして活動する。

2:左/土屋咲瑛(つちやさえ)さん
大阪府出身。京都市立芸術大学大学院美術研究科美術専攻油画修了。京都や東京のギャラリーでインスタレーション作品の展示を行っている。

2:右/安藤湖春(あんどうこはる)さん
愛知県出身。現在、京都市立芸術大学大学院美術研究科美術専攻油画に在籍し、東九条のアトリエで絵画などの制作に動いている。

若手アーティストによるアートプロジェクト「あつめやさん」



何かを「あつめ」、 誰かに伝え、 人と出会う。

道端で拾われた落ち葉、
とある和菓子店の名物のおやつ、
さらにはどこかの食卓を彩るレシピなど、
さまざまなモノやコトを集め、
発信しているアートプロジェクトがある。
その名も「あつめやさん」。
「店長」のひとりとは京都市立芸大大学院生の
おかだまゆみ
岡田真由美さん、
「店員」のひとりとは京都市立芸大生の
かとう
加藤あすかさんに聞いた。

見過ごしていた何かを発信。

「あつめやさん」の活動拠点は京都駅周辺(崇仁・梅小路)。それぞれの地域を歩いたり、人の家を訪ねたり、商店街のイベントに参加したりして何かを集め、その成果を展示や自作の新聞など多様な媒体をとって発表している。自分たちの取組についてこう話す。「新しいものがすぐに消費される時代の中で、何気ない風景、ずっとそこにあるもの、日常の出来事など、これまで見過ごしていたことや、見ようとしないと見えてこないものを発信し、それが誰かにとって何かを考えるきっかけになればいいと思っています」。架空の店という形態にしたのは「お店みたいだと人と話しやすくなるから」と岡田さん。イベントにはオリジナルの屋台で参加することもあり、そのユニークな姿に注目する人も多い。

そもそも何かを集めることに関心があったというふたり。「小学生のころから海岸の漂着物を拾うのが好きで、そういうものに自分にはない時間があるような気がしていたんです」という岡田さん。一方の加藤さんは「落とし物を写真に撮って記録」していて、「道の隅にそっと置かれたぬいぐるみに人の優しさが見えたりするのが面白いんです」。

つながりをつくるのもアート。

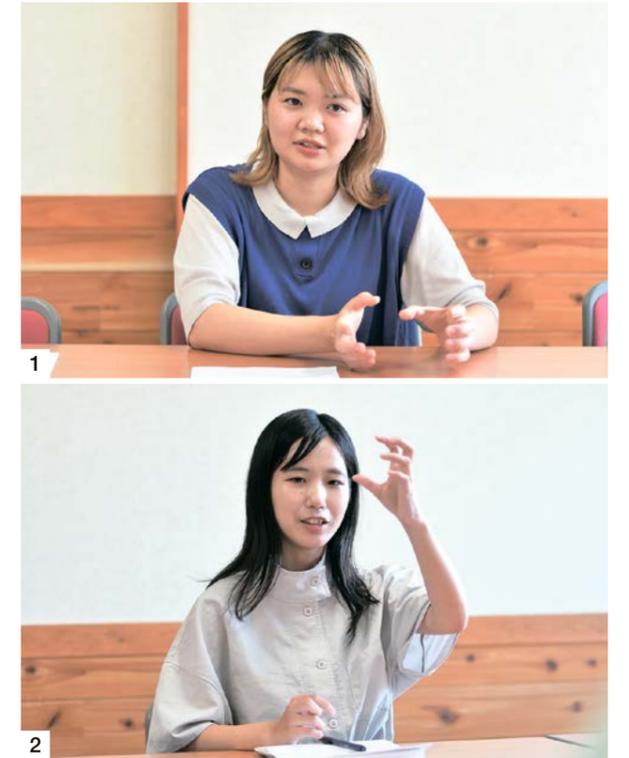
2023年春にスタートした「あつめやさん」の活動歴はまだそんなに長くないものの、これまでに多くの出会いがあった。その中で岡田さんが一番印象に残っているのは揚げ餅をつくる女性。「京都市立芸大の近くに住んでいるおばあさんで、最初はレシピを教えてもらうために家におじゃましていました」。ところが一緒に餅を揚げたりしているうちに「会うこと自体が楽しくなったんです。昔、靴の修理をしていたので、わたしの靴をきれいに磨いてくれたりして。レシピを集めていないと知り合うことはなかったと思うので、これは『あつめやさん』が広げてくれたつながりです」。

加藤さんも人との出会いを楽しみにしている。「小学生の子が続けてイベントに参加してくれて、自分で集めたものを持ってきてくれたりします」。また、展示などを介して地域の人同志のつながりも生まれ、「最初は自分でもよく分からないことをやっているという感じだったのが、今ではこういう場とかコミュニケーションのつくり方もあるんだと思い、これもアートのひとつの在り方と考えています」。

何ごとともあいさつから。

地域に軸足を置いた活動をマイペースに続けるふたりが頼りにしているのが、地域交流・活動を支援する「京都市下京いきいき市民活動センター(いきせん)※」。「スタッフの方が近所の人と仲がよく、揚げ餅のおばあさんを紹介してくれたのもいきせん、最初の展示を行ったのもこのロビーでした」と岡田さん。以前からいきせんは、京都市立芸大の学生や大学院生の活動を親身に応援していたことも、関係を深めるきっかけになったという。

金沢の芸術系大学を卒業し、京都市立芸大の大学院に進んだ岡田さんは、京都というまちの特性についてこう考えている。「京都市



にはずっと文化事業に力を入れているというイメージがありました。実際に来てみると文化をはぐむ土壌が豊かで、地域の人も芸術を理解しているのを感じるので、新しいことがやりやすいまちだと思います。そして自分の経験を踏まえ、京都でのアート活動を夢見る人にこんなメッセージを送ってくれた。「少しでも興味があってやりたいことがあればチャレンジしてほしい。相談したいことがあれば市内各地にいきせんがあるので、そこに行ってみたらいいと思うし、ほんの少し勇気を出して地域の人が集まる定食屋とかに行ってみるのもいいかも。わたしたちがそうだったように、力になってくれる人がきっと見つかるはず。ちなみに大学院の先生は、『まずは何ごとともあいさつからや』っておっしゃってます(笑)」。



1: 岡田真由美(おかだまゆみ)さん
東京都出身。金沢美術工芸大学彫刻専攻卒業。京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻在学中。
2: 加藤あすか(かとうあすか)さん
大阪府出身。京都市立芸術大学美術学部デザイン科ビジュアルデザイン専攻在学中。

※京都市下京いきいき市民活動センター(いきせん)は、若手アーティストの支援のほか、レンタル会議室、市民による活動団体、自治会などの活動支援を行う京都市下京区の公共施設。(P9参照)

◀地域を歩き、様々なものを集めている様子。



京都駅南側、京都の玄関口に位置する「都ホテル 京都八条」では、地域貢献とおもてなしを重視しながら、芸術系大学の学生や若手アーティストの支援を行っています。これまで近くに移転した京都市立芸大の音楽学部生による「小さな演奏会」や美術学部生による「はじまりの美術展」を定期的で開催し、ホテルロビーをアートと音楽で彩っています。これにより、地域社会とのつながりを深めつつ、訪れるお客様に心豊かなひとときを提供しています。今では京都精華大の学生によるイラスト展も開催するなど、更なる盛り上げをみせています。

Data | 住 所：京都市南区西九条院町17
連絡先：075-661-7111



都ホテル 京都八条



こしろけい
小城恵さん
(都ホテル 京都八条 マーケティング部 サブリーダー)

京都市立芸大や京都精華大の学生さんを中心に、今後も京都で学ぶ若手アーティストのみさんの活動を応援していきたいと考えています。音楽やアートを通じて、地域社会に貢献したいという熱意をお持ちの学生の方は、ぜひその想いをお聞かせください！



高瀬川のせせらぎを感じながら細い路地を入ると保育園の運動場から子供たちの声が心地よく聞こえる落ち着いた一角に「ギャラリー 京都七条」があります。築100年以上の木造家屋を改修して完成させた室内は、どこか懐かしい雰囲気を感じ、個展・グループ展を問わない、ちょうどいい広さになっています。京都市立芸大の学生による作品展は、アーティストであるオーナーに相談しながら開催されました。

Data | 住 所：京都市下京区西木屋町通七条上る新日吉町135番地16
連絡先：kyoto7gallery@gmail.com



ギャラリー 京都七条



はまがちやすゆき
濱淵泰行さん
(ギャラリー 京都七条オーナー)

周辺には京都市立芸大の新学舎があり、線路を挟んだ南側には「チームラボ デジタルアートミュージアム」も建設中で、創造に満ち溢れた居場所になればと願っています。絵画、彫刻、写真、イラストなど発表の場としてご利用ください。作品展をしたことのない学生も大歓迎です。



「murmur coffee Kyoto」は、店内から高瀬川を眺めながら過ごすことができるナチュラルな雰囲気のカフェです。2020年の「SHIMOGYO+GOODまちなかアートギャラリー」では、大原一恵さんなど若手アーティストの作品を展示し話題に。現在も展示を続け、地域とアートを結び拠点として注目されています。店主の山内一正さんは、地域の文化を大切にしながら、新たな才能を応援する活動を展開。店内では京都美術工芸大の学生が近くの正面橋、高瀬川をイメージして制作したコーヒーカップを使用。さらに、店舗イメージを基に学生が合板を使用した椅子を制作、展示を行いました。

Data | 住 所：京都市下京区八王子町103
連絡先：075-708-6264



murmur coffee kyoto

マーマー・コーヒー・京都



やまうちいっせい
山内一正さん
(murmur coffee kyoto店主)

夢を持った若いアーティストの方々に応援できれば嬉しいです。これからも地域の文化を大切に若い方々の発信、表現の場としてどんどん自由にお使いください。



京都市立芸大美術学部卒業生が制作し、店舗で使用されているお皿

味自慢 さたけ

京都市立芸大に近い「さたけ」は、平成13年から営業する揚げ物専門店。ミノとレバーの天ぷらが特に人気です。西村夫妻が営むこの店は、地域の歴史と温かい人柄が魅力。若手アーティストの作品展示を行っており、実際に京都市立芸大美術学部の卒業生が創ったお皿がお料理に使われています。アートと美味しい揚げ物が楽しめる「さたけ」。京都市立芸大の移転に伴い、学生や教員、地域の新たな交流の場となっています。



にしむらたけお さちこ
西村武夫さん・佐智子さん夫妻
(さたけ店主)

私たち二人とも体力が続く限りお店をやりたいと思っています。それには若い人たちがお店に来てくれることがなにより力になります。お店の中に作品を飾る場所を作ったので、飾りたい人は遠慮せずに持って来てください。

Data | 住 所：京都市下京区東之町17-7 崇仁市営住宅4棟1F
連絡先：075-691-6611

「hatoba cafe」は、かつての染色工場を改装したカフェとギャラリーで、天井が高くアンティーク家具が特徴の喫茶店です。店名のhatobaは、多様な文化と人々が交流し集う場を表しています。これまでに絵画や版画、彫刻、写真による国内外の作家の個展やグループ展、京都市立芸大の音楽学部生による「小さな演奏会」や手作り工芸品バザールも数回開催され、若手アーティストの活動の場として注目されています。

むさしあつこ
武蔵篤彦さん (hatoba cafeオーナー)

この店は移転後の京都市立芸大、そしてオープン予定しているチームラボのデジタルアートミュージアムのすぐ近くにあり、これから大変面白い場所になると思います。若いアーティストの感性で楽しく、自由に、そして地域の皆さんに喜んでいただける作品展や演奏会が開かれることを期待しています。

Data | 住所:京都市南区東九条南岩本町10オーシャンプリントビル1階
連絡先:075-644-9152



京都駅西部エリアの嶋原商店街にある「GOOD TIME COFFEE」は、京都のデザインオフィスが手がける町家をリノベーションしたカフェ。一杯ずつ淹れるコーヒーや地域を大切にしたいメニューなど、長い歴史の中で育まれた文化をサービスに取り入れ、現代の暮らしにより良いひとときを感じられます。カフェ内にある土間ギャラリーでは、レトロな雰囲気を残すタイルの台所と白い壁面を展示・販売スペースとして利用することができ、学生をはじめ様々な展示会やイベントが行われています。

Data | 住所:京都市下京区突抜二丁目357
連絡先:075-202-7824



にしやまたくま
西山拓磨さん
(GOOD TIME COFFEE代表)

私をはじめデザインオフィスに所属するデザイナーや芸大生によってギャラリーを運営しています。展示会の開催にあたってサポートを受けられたり、デザイン・アート系の交流も広がると思います。初めての展示にもおすすめです。

「一般社団法人HAPS」は、若手芸術家等が京都市内に居住し、活動し続けることができる環境を整えるために、居住・制作・発表の場づくり等を包括的に支援しています。「HAPS HOUSE」は、「HAPS」の拠点の一つで、2020年開設。アートと共生社会に関する相談事業(SW/AC)の事務所であるほか、ギャラリーなどを備え、様々な人々が交流し、集う場所として機能しています。現在、ギャラリーでは、展示を行ったアーティストが次に展示するアーティストを指名するリレー形式での展示会シリーズを開催中です。

HAPS HOUSE 担当者

SW/ACの相談受付や対話の実践「朝の談話室」、ギャラリーでの展示(金土日オープン)など、様々な人の行き交う場を目指しています。開館時間などウェブサイト・SNSで発信中。お気軽にお訪ねください!

Data | 住所:京都市南区東九条東山王町1 連絡先:info@haps-kyoto.com



撮影:松見拓也(右上下)



Kyoto Makers Garage
京都メイカーズ・ガレージ

美術大学生や一般の方にとって、デジタルファブリケーションの知識は、新しい可能性を切り開く大きな力となります。3Dプリンターやレーザーカッターを使うことで、これまで実現が難しかったアイデアを形にでき、制作の幅が広がります。「Kyoto Makers Garage」は、学生や一般の方がこれらの技術を基礎から学び、自由に試せる場を提供しています。初心者でも安心して参加できる技術サポートやイベントも豊富で、創造的な活動をサポートする環境が整っています。

ひらのじえい
平野滋英さん
(KYOTO MAKERS GARAGE
テックコンサルティング)

初心者から経験者まで、どんなステージの方でも大歓迎です。ものづくりに挑戦したい気持ちがあれば、しっかりサポートしますので、一緒にがんばってみましょう。

Data | 住所:京都市下京区朱雀宝蔵町73-1ライオンビル1F
連絡先:075-205-5319



カジュアルに相談できる。

アーティスト相談窓口情報

京都市下京いきいき 市民活動センター



京都市立芸大に隣接している、京都市の市民活動センターです。「ダイバーシティズン・センター」を目指し、「誰1人取り残さない」という観点から、地域住民一人ひとりに寄り添う活動を応援しています。演劇や楽器練習ができる音楽室や会議室の貸出も行っており、センター窓口にて申請が可能です。

住 所：京都市下京区上之町38
連絡先：075-371-8220

コミュニティ・バンク京信 QUESTION 梅小路



コミュニティ・バンク京信のスタッフが「コミュニティマネージャー」として常駐し、モノづくり関係者、アーティストや社会起業家など多様な人々をつなげる交流・発信の拠点です。新たな価値やイノベーションの創出、地域課題や社会課題の解決を目指しています。

住 所：京都市下京区朱雀宝蔵町34 Umekoji MARKEt 2階
連絡先：080-6190-7816

京都市文化芸術総合相談窓口 (KACCO)



文化芸術活動全般に係るアドバイスや各種補助金の紹介、契約書・著作権等の法律相談、メンタルケア、税務・確定申告の相談、移住・居住等に係る相談など、専門家・関係機関と連携しながら文化芸術関係者からの相談に幅広く対応しています。

住 所：京都市中京区山伏山町546-2 京都芸術センター内
連絡先：075-252-2162(火～土 10:00～18:00/日・月・祝休)

京都市下京青少年 活動センター



楽しみながら交流できる機会の提供、青少年の社会参画を目指したイベントの開催、目的に合わせた部屋の貸出を行っています。ピアノやドラム、ギターアンプなどが付属している音楽スタジオがあり、マイクやシールドなどの貸出も行っています。また、若者をサポートする専門スタッフ「ユースワーカー」が幅広い相談を受けています。

住 所：京都市下京区川端町13
連絡先：075-353-7750

一般社団法人HAPS



芸術家や芸術家を支える人からの居住、制作、発表等、創作活動に関わる様々な相談に対応しています。HAPSのウェブサイトでは、京都市内の幅広いジャンルの展覧会・イベント、各種公募・助成等の情報も掲載しています。

住 所：京都市東山区大和大路通五条上る山崎町339
連絡先：075-525-7525(火～土 11:00～17:00)

下京区役所 地域力推進室 企画担当



地域力を活かした主体的な活動を支援する補助金事業「SHIMOGYO+GOOD」を実施しており、「良いことがたくさん京都・下京区」をつくろうとする活動を応援しています。これまで、京都市立芸大生を講師として招いた商店街でのこども絵画教室の開催など、文化芸術を通じたまちの魅力の発信、地域課題の解決等につながる取組も支援しています。

住 所：京都市下京区西洞院通塩小路上る東塩小路町608-8
連絡先：075-371-7164

京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課

【Arts Aid KYOTO】

京都の文化芸術を担うアーティスト等の意欲的な活動を、個人・企業の寄付等により社会全体で支え、持続的な京都の文化芸術の発展を目指す「Arts Aid KYOTO～京都市 連携・協働型文化芸術支援制度～」を令和3年度に創設。皆様からいただいた御寄付をもとに、文化芸術事業を支援しています。



※「事業認定型」と「通常支援型」の2つの枠組があります。

詳細はこちら。▶ <https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000289846.html>

【Kyoto Art Donation】

寄付ポータルサイト「Kyoto Art Donation」では、文化芸術への支援を呼びかけています。「今月のイチオシ」など、情報発信も行っていますので、是非一度ご覧ください。



<https://kyoto-art-donation.com/>

住所：京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 連絡先：075-222-3119

5TO9 LIFEは、 どんなメディアか？

京都駅周辺にカルチャーを発信してきた 「5TO9」がこれから伝えたいこと。

5TO9(ゴー・トゥ・ナイン)は、京都駅周辺を拠点に地域がアーティストを応援する文化を広めるための合言葉です。京都市では、下京区から南区にかけての"五条通から九条通"エリアを「5TO9」として位置づけ、このエリアでアートカルチャーの発展を支えてきました。現在では、京都市立芸大の移転を契機に、若手アーティストを応援したい、地域と一緒に活性化したいという地元の熱い想いと協力のもと、大規模ではないものの、心温まる作品展や音楽会を開催し、「地域とアートを結びつける場づくり」を積極的に取り組んでいます。京都駅周辺にエリアを広げて、盛り上がりを見せるカルチャーをさらに促進するため、地元での芸術活動や交流の場を紹介する広報誌『5TO9』は、令和2年度から11号まで発行され、文化芸術の自発的な動きを支援してきました。そして、さらに進化したのが『5TO9 LIFE』です。本誌は、配布エリアを下京区・南区から京都市全体に拡大し、京都駅周辺で生まれる新たなカルチャーをより広く、共に盛り上げていくことを目指しています。

5TO9 LIFE 発行元

京都市総合企画局 プロジェクト推進室

住 所：京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
連絡先：075-222-3176

京都駅周辺エリアが、芸大生や若手アーティストにとって、地域と関わりを持ちながら活動できる交流の場となるような、まちづくりに取り組んでいます。これまで延べ100人を超えるアーティストと、作品展示や演奏会、ワークショップなどを開催するとともに、情報発信も行っています。活動の場でお悩みの方は、ぜひ一度ご相談ください。

「5TO9」は、令和2年度から11号まで発行、
バックナンバーをご覧いただけます。



今後の京都駅周辺エリアの文化芸術の
動きは“手のひらで読める5TO9”として、
京都市公式noteで発信していきます。

